

トピックス

製薬協では2013年12月に「環境報告書2013」を発行しました。会員企業をはじめ、環境省等の行政機関、環境NGO、業界団体、マスコミ関係、大学等の研究機関に配布するとともに、環境報告書等の無料請求サイト「エコほっとライン」を通じてご希望の方に無償で幅広く提供しています。また、冊子の内容は製薬協ホームページでも公開しています。

環境報告書が目指すこと

環境安全委員会では地球温暖化対策、環境、安全衛生の3つの専門部会を中心に、さまざまな社会の要請や会員企業が直面する課題に対して、重要なテーマを設定し継続的、自主的に活動しています。環境報告書は、これらの活動の内容や実績を広く社会に向けて積極的に公表し、多様なステークホルダーに製薬企業の環境保全活動や労働安全衛生への取り組みの現状を理解していただくための重要な手段と考えています。

2013年度版の特徴

今回で15版目となります。環境安全委員会の組織体制や、行動計画とその実績を報告するとともに、専門部会や各部会に設けられた研究会におけるさまざまな活動を紹介しています。また、経団連の低炭素社会実行計画および環境自主行動計画（資源循環型社会形成編）のフォローアップを協働で実施している日本製薬団体連合会（日薬連）との連携や、開催した講演会、セミナー、各種研修会の概要などを掲載しています。

環境報告書の概要

1. 地球温暖化対策

「2010年度（第一約束期間5カ年の平均値）の製薬企業のCO₂排出量を1990年度レベル以下に抑制する」ことを目標として排出削減に努めてきました。2013年度の工場・研究所を対象としたフォローアップ調査（2012年度実績）には、製薬協62社、日本ジェネリック製薬協会、日本OTC医薬品協会合



せて38社の計100社が参加しました。2012年度のCO₂排出量は191.5万トンで基準年度（1990年度）の165.6万トンを大きく上回ったことから、第一約束期間（2008～2012年度）の平均CO₂排出量は176.4万トンとなり、基準年度に対して6.6%（10.9万トン）増加し、自主行動計画の目標達成に至りませんでした。目標未達成の最大の理由は、震災・原発事故により電力の炭素排出係数が大幅に悪化したことにあります。なお、震災がなかったと仮定した場合、平均CO₂排出量は164.8万トンであり、基準年度に

対して0.5% (0.8万トン)削減で、目標を達成していたこととなります。2013年度からは、低炭素社会実行計画の目標「2020年度の製薬企業のCO₂排出量を、2005年度を基準に23%削減する」の達成へ向けた取り組みを開始しています。

2. 省資源・廃棄物対策

2011年度から新たな目標「2015年度の産業廃棄物最終処分量を、2000年度を基準に65%程度削減する」を設定し、廃棄物削減に向けた取り組みを継続しています。2012年度の最終処分量は前年度から約100トン減少し、約4,300トン(2000年度比78.8%減)となりました。この2012年度実績ですでに目標を達成したこととなりますが、同時に行った2015年度の最終処分量の見込み調査では、基準年度の70%程度の削減量に悪化する結果となっています。このため、数値目標の継続的な達成はもとより、より高いレベルで最終処分量の削減に取り組む必要があります。また、「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞した事例を紹介しています。

3. 化学物質管理

有害性のあるPRTR^{*}物質、揮発性有機化合物(VOC)など101種について、取扱量と大気排出量の調査結果を報告しています。会員各社におけるPRTR物質の環境への排出量は着実に減少してきており、2012年度の排出量は2002年度に比べ、77%削減されました。また、関心が高まっている生物多様性保全については、製薬企業の生物多様性への取り組み状況を把握し、よりいっそうの取り組み推進につなげるべく、アンケート調査を実施し、その結果をトピックスで紹介しています。さらに、「プロセス安全研究会」に2013年度から「高薬理活性物質取り扱い分科会」を設立し、会員各社の基準や取り扱い状況の情報交換を行い、参考になる資料や情報の提供を目的として活動を開始しました。

4. 労働安全衛生活動

会員企業の従業員が、心身ともに健康で安全に仕事に打ち込める職場環境(営業車両運転を含む)を構築できるように、労働安全衛生に関する会員企業の

取り組み状況について、幅広く調査した結果を掲載しています。労働災害事故の発生(頻度および重篤度)と型分類(転倒、巻き込まれ、交通事故など)をまとめ、休業災害では、受傷者の年齢、業務経験年数についても追加調査し、その結果を記載しました。また、「営業車両事故防止研究会」の中で、営業車両の交通事故状況と安全対策の取り組みなどの調査結果をまとめ、事故防止への課題として挙げられている「新卒MRの事故」と「事故多発者」に焦点をあてた調査・分析を行っています。さらに、運転能力判定や講習が事故防止に効果を上げていることを述べています。

5. 社会との調和

製薬協は、日薬連と連携し、地球温暖化対策や省資源・廃棄物対策など、経団連と連携した自主行動計画や医療廃棄物対策などの製薬業界固有の環境課題に取り組むことにより、法的・社会的な要請に応えています。日薬連環境委員会の役割、事業所計画(重要課題)、取り組みの現状、そして、2013年度から始まった日薬連「低炭素社会実行計画」の概要(参加団体・企業数を含む)を記載しています。また、医薬品産業の現状や製薬協の環境安全への取り組みについて、薬学部学生との対話を目的とした研修会を2012年度に引き続き製薬協で開催し、その概要を紹介しています。

以上のほかに、安全衛生技術研修会の講演者から寄稿された講演内容のポイントを紹介しています。睡眠を科学的に研究し、正しい睡眠のあり方について解説した「睡眠の法則」が2013年ベストセラーとなりましたが、その著者である菅原洋平氏による講演「アクティブ・スリープ～睡眠で仕事の質をかえる～」の概要です。

^{*} PRTR：化学物質排出移動量届出制度(Pollutant Release and Transfer Register)。有害性のある化学物質を製造・使用している事業者が環境(大気・水域・土壌など)中への排出量、および廃棄物の移動量を把握・届出し、行政機関がそれらを集計し公表する仕組みのこと。

(環境安全委員会 委員長 登坂 晃之)